

入間市公共施設マネジメント事業計画（原案）市民説明会の概要（2月2日(土) 金子公民館）

1. 開催日時・会場

〈金子地区〉

日 時 平成31年2月2日（土） 午前9時30分から午前11時50分

場 所 金子公民館 1階 大会議室

2. 内容

①開会あいさつ（田中市長）

②公共施設マネジメント事業計画（原案）についての説明（公共施設マネジメント推進課）

③質疑応答

④閉会

3. 参加者数

参加者 78名

※ 質疑応答の概要は別紙のとおりです

「公共施設マネジメント事業計画（原案）」市民説明会 質疑応答一覧

No.	発言要旨	応答
1	・2つの保育所を統合して、保育所を金子小学校に配置するということが、校庭の利用について気になることがある。保育園児と小学生が同じ場所で生活することでプラスになることもあると思うが、保育園児と児童では使う遊具も違う。狭い校庭で、園児も児童も満足に遊ぶことができるのか。また、安全面はどのように考えているのか。 ・人口減少に伴い保育所を統合することはやむを得ない。しかし保育所の造りは小学校とは違う。小学生がサッカーをするとなると校庭全面使用することになると思う。 ・市役所整備の説明で税収の話があった。税収が減っているから公共施設を統廃合するということであるが、なぜ市役所は耐震補強ではなく建替えるのか。建替えを行うことで費用が多くかかる。川越市役所は耐震補強を行い、入間市の提示している金額よりも大分安く済んでいる。今回の提示は、当初の予定よりも大幅に金額は下がったが、耐震補強を行えばもっと金額を減らせるのではないか。 ・納得できない部分もあるが、自分でも調べてみたい。	(公マ課) 敷地内のレイアウトは設計段階で駐車場も含めて検討し、整備したい。所管課や保育所とも協議して決めていきたい。 (総務部) 全国の事例を研究する中で、校庭を完全に分離する必要があると知った。校庭の安全面では、小学校と保育所の境にフェンスを設けることを考えている。保護者の送迎もできるように、東校舎の川沿いを拡幅するイメージでいる。今後も事例を研究し、細部まで詰めていきたい。その際は安全重視で考えていく。 (公マ課) 短期的に見ると耐震補強が安いのは事実である。しかし長期的コストを見ると、耐震補強のみを行っても、その後建替えが必要になる。今後30年間を見通すと、耐震補強のみを行って使い続けるよりも建替えを行った方が安くなるという結果が業務委託をしている専門家のシミュレーションで出た。川越市役所は耐震補強のみを行って約11億円かかったと聞く。川越市は耐震性能を補い安全確保を優先したが、庁舎自体の老朽化もあり別途20数億円かけて改修工事を近年中に行う予定である。その後、建替えも視野に入れなければならない。どのような工事を選択するかは考え方による違いが一つあげられる。また、川越市役所と入間市役所では建物の構造上の違いもある。川越市役所には吹き抜けがなく、耐震補強が比較的行いやすい。以上のことも踏まえ検討した結果、入間市役所では建替えを選択した方が長期的に財政へ与える影響は少ないととらえている。 (公マ課) 「市役所等整備計画(原案)」として計画を策定しているところである。詳細はホームページや各公民館等で確認してほしい。

2	・インフラ整備について伺う。今上下水道の老朽化が深刻である。インフラ整備については今後計画を公表する予定はあるのか。 ・民間活力の導入を考えているということだが、具体的に今進んでいる民間活力の導入があれば教えてほしい。 ・不要となる建物、跡地を売却した場合、財源に充てるのか。 ・金子中学校は既に人数の基準を満たしておらず、部活動等に支障がある。今後金子中学校の生徒数が減っていった場合でも、1地区に1校を維持するのか、あるいは地区を超えて通学することになるのか。 ・老人憩いの家は高齢化が激しい金子地区では大切な場所である。地域包括も含めて活用を前向きに検討してほしい。 ・10年後高齢者はピークを迎える。地区センターの包括機能は特に早めに整備してほしい。 (意見のみ) ・金子地区にはマミーマートとドラッグセイムスがあるだけだ。購買意欲の高い層が減ったら撤退してしまうかもしれない。買い物難民にならないように、公共施設と買い物の場を含めて決めていってほしい。 (意見のみ)	(公マネ課) 水道、道路、橋梁などのインフラ整備計画は公共施設マネジメント事業計画とは別に検討している。それぞれ長寿命化計画があり、計画に沿って改修等を行っている。 (公マネ課) 具体的に話が進んでいるものは現段階ではない。この計画が決定し、個々の施設のあり方を検討する中で、考えられる施設は積極的に進めたい。 (公マネ課) 跡地は事業費を圧縮するために、売却益もできるだけ充当していきたい。どの程度の金額になるのかは実施してみないとわからないが、検討していきたい。 (学校教育課) 建物は第3期に中学校の改修工事を行い維持していく。今現在、30年後までは金子地区から学校をなくすことは考えていない。子どもが減ったことにより学校を地区から無くすという計画はない。部活動等がままならない生徒数になっていることは把握しているが、今後どこの地区でも起こりうる問題であり、今後の検討課題としたい。 (公マネ課) 老人憩いの家は活用実態を見ながら積極的な活用を図りつつ、活用が見込めないのであれば地元と協議して方向性を決めたい。高齢者対策として、地区センターの位置づけも含めて対策を図っていく。
3	・市役所の建替えについて詳しく知りたい。金額だけではなく、現在の建物の規模、職員数と将来の建物の規模、職員数を教えてほしい。	(公マネ課) 現在の市役所本庁舎に勤務する職員は625人である。その人数を基に必要面積を試算すると、国土交通省基準で8,800㎡必要であると出た。これは現庁舎のC棟を除いて必要な面積であるが、現在のAB棟と比較すると17%削減された面積である。将来的に職員数の減少も

	考えられるが、今後 10 年の中で建替えを踏まえて検討すると職員数を大幅に減らすことはできないため、現状の職員数で必要面積を算出した。また、長期的な視点として、平成 2 年に建築された C 棟は 6,000 m²ほどあり、改修工事を行えば 30 年程度使える。しかし、30 年後は建替えるかどうかの検討をしなければならない。その時点で人口減少に伴う職員数の減少があれば、C 棟の規模を小さくして建替えるのか、あるいは C 棟は不要とすることも考えられる。30 年後の職員数を見ながら面積を調整する。 (政策推進室) 人口減少対策については、「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成 27 年度から 5 箇年計画で、大きな三本の柱を立て「元気な子どもが育つまち」の取組を進めている。具体的には 68 の事業を展開し、福祉や子育てなどの施策を重点的に行っている。将来、人口が 9 万人になる予測を 12 万人に維持できるよう取り組んでいる。現在 14.8 万人の人口が 12 万人に減ってしまう部分を公共施設マネジメントなどの取組で補おうとしている。公共施設の数減るが、しっかり投資をし、安心安全や魅力をアップさせたい。
4	・ 人口が減るのであれば市役所の設備も小さくなり、市職員も減っていくと思う。それと同時に、子どもを増やす施策を考えるべきだ。 ・ 地区センターに入る 6 つの機能について聞きたい。金子公民館は地区センターへ変わる際には人員配置しか変わらないのか。金子地区センターの規模はどのくらいか。 ・ 防災拠点としてはどのような機能がつけられるのか。充実した機能を整備してほしい。 (公マネ課) スライド 26 に 2022 年に一斉に地区センター化を行うと示したが、金子公民館についてはその時点で改修工事を行って、すべて備えることを想定している。具体的には、公民館と支所は既に整備されている。自治振興支援機能と防災拠点機能についてはソフト面として、組織体制を整える。また、福祉総合相談支援窓口と地域包括支援センターの機能は未整備であるので、スペースを作ってから整備していきたい。しかし、組織についてはまだ決定しておらず、人数等は未定である。サービス提供の仕方は全体で統一し、地区の事情に合わせて、今後検討し具体化していきたい。 (危機管理課) 今、金子支所を中心に現場本部機能を持たせているが、今後地区センター化することでより充実を図りたい。災害が起きた場合も本庁舎に災害対策本部を設置し、連携が取れるようにしたい。

5	・インフラについて伺う。金子地区の道路の長寿命化はハコモノと別という話だが、どのような計画があるのか。金子地区の道路整備について聞きたい。都市整備部で都市計画マスタープランを立てていると思う。その中で金子地区の20年計画では桂通りと茶どころ通りの拡幅計画、根通りの狹隘道路の改善計画は20年も前から話が出ているのに一向に実施されていない。公共施設マネジメントの計画は30年計画であるが、道路整備も一緒に考えていかないと財政との整合性が図れないのではないか。 ・公共施設マネジメント事業計画（原案）の101ページにインフラの整備計画の金額が記載されているが、2019年から2020年にかけてインフラ整備の金額が落ちている。また、2022年にはインフラ整備にかかる金額が現在の12億円から半額の6億円に減り、それ以降もずっと同じ6億円という金額が示されている。この金額では新規事業はできない、維持管理費用だけではないか。公共施設マネジメント事業計画を実施していく上で、調整した金額なのかもしれないが、これでは都市計画マスタープランは実施できないと思う。実施できないのになぜ計画を載せているのか。 ・少子高齢化は何十年前からわかっている。建物についても、寿命や、改修工事を行わなければならないことはわかっていたはずなのになぜ基金の積み立てをしてこなかったのか。今になって一遍に施設を建替えようとする姿勢が良くない。この計画が終了する30年後、また同じことが繰り返されない様に、今までの反省をして今後に活かせるように明文化すべきである。	(都市整備部) 都市計画マスタープランは財政計画上、公共施設マネジメント事業計画とは別に考えている。都市計画マスタープランは青写真を描いており、基本構想としてどのようなまちにしたいのかを重点として示したものである。その中で実現できるものを優先して実施する。 (政策推進室) 公共施設マネジメント事業計画の必要経費はそれぞれの事業を各々の積算根拠に基づいて積み上げたものである。インフラ整備計画は、2019～2021年の3年間は、総合計画を実現するために実施計画として個別具体事業として予算を伴って計画立てをしている。それ以降は、道路や橋梁などのインフラ整備にかかるお金を試算して計上したものである。都市計画マスタープランの構想路線は公共施設マネジメント事業計画（原案）の101ページに記載されているインフラ整備金額の中に個別具体的に入っているわけではない。計画の中には現時点において実施計画で認めていて、必要と思われる事業を積算している。長期的な計画である、公共施設マネジメント事業計画は具体的に施設にかかる金額がわかるため、年度によって事業費が示せるが、インフラ整備にかかる金額は2022年度から同じ事業費である。それは今の実施計画をベースにして示したためである。財源は公共施設マネジメントと併せて見直し、実数値に置き換えて実現していきたい。 (市長) この計画は30年間の計画であるが、実際には30年ではなく40～50年先まで考えなければならない問題であると考えている。将来、同じ間違いをしないように明文化していきたい。人口を減らさないために子育てを支援し、合計特殊出生率は平成23年には1.18から、平成29年には1.20になった。今後も工夫した取組を実施し、将来的には人口が減らないと言われている2.07まで上げたい。中間目標として1.80を目指してい
---	---	---

		る。今後もしろいろな工夫を展開していきたい。具体的には昨年6月にエアコン設置した。子育て、教育、老後、それから交通が便利なまちにすることで将来的に住みやすい入間市になるように検討している。入間市が本当に住みやすいまちになるようにしなければならない。入間市独自の計画として、来年度の予算に組み込む検討をしているものがある。それは、近居・同居への支援である。子どもがいる家庭が入間市に転入し家を購入するための補助金を考えている。合計特殊出生率が上がっても、今後、出産適齢期の人口が減ってしまえば、また人口が減ってしまう。今回の施策では“入間市は、やるべきときにやるべきことをやっている”と思われる施策を展開したい。元気なまちづくりのために前向きに行っていきたい。公共施設は市民の財産であるので、議論して決めていきたい。
6	・スライド15にユニバーサルデザインとあるが、JR金子駅はエレベーターがついた。今までエレベーターがなくベビーカーで実家に帰ることができなかった。しかし、エレベーターがついたことによって電車での行き来ができるようになった。JRはユニバーサルデザインに取り組んでいる。入間市もこのような切り口で住み良いまちづくりに取り組んだらどうか。例えばまちに椅子を設置してお年寄りが休憩できるようにしたらどうか。今、根通りを電動車いすで走っているのを見るがとても危ない。また、視覚障害者は金子地区ではトラックが多く、危なくて歩けない。視覚障害者は入間市で見かけないのは、安心して道を歩くことができないからではないか。全市的に取り入れるのは難しいが、視覚障害者に案内を出して安全な道を教えることはできるのではないか。ユニバーサルデザインは早めに取り入れてほしい。防災や安全対策を行うことで子どもから老人まで安心して住むことができる。防災の観点から言えば、コンクリートブロックの倒壊が不安な箇所が何か所もある。通学路の点検を行い、予算が伴わずにできるものはすぐに実行してほしい。	(市長)ユニバーサルデザインはできるものから導入していきたい。金子駅は市からもJRに何度も要望を出し、国から3分の1、入間市からも3分の1お金を出して実施されたものである。その他に、ヒアリンググループも導入した。不便なことは今後も提案してほしい。財源と併せて検討する。
7	・この計画は先月初めて知った。授業参観日に他の母親にこの計画について尋ねてみたが、誰も知らなかった。情報が共有できていない。保育所が学校に通っている保	(公マネ課)子育て世代の参加が難しいことは感じている。今回の説明会も学校や保育所を通じて案内を配ったが、なかなか参加につながらない。今後も参加につな

護者にも手紙を配布したらどうか。今日の参加者も高齢者が多い。子育て世代が興味を持てるように工夫をして、親の意見も聞く場所を設けてほしい。計画自体は仕方のない事だと理解しているが、周知をしっかりとしてほしい。 ・ 保育所が小学校にできることに不安がある。少し前に金子小学校の体育館が2年間工事で使用できなかった。その時は入学式も金子中学校で行われ、体育の授業も十分に行えなかった。校庭も工事の関係で狭くなり子どもたちが十分に遊ぶこともできなかった。今、体育館の工事が終わり、制限無く遊べるようになった矢先、金子小学校に保育所ができると聞き、また工事で校庭が使えなくなるのではないかと心配している。子どもたちに不便がない様にしてほしい。そして、安全面では、金子小学校の通学路は、川沿いで車が通行せずとても安全で、安心して送り出せる。しかし、小学校に保育所を作ることで、川沿いの道を拡幅し、車が通れるようになっても本当に安全なのか心配である。	がるような周知の方法を工夫していきたい。若年層の声を聞くために昨年、市内公立小中学校に通う小学校6年生と中学校3年生全員と15歳～30歳までの男女を無作為抽出で1,000人にアンケートを実施した。 (公マ課) 今後、具体的に施設の整備を検討する際は、現在の利用者や将来の利用者から意見を聞いて具体化していきたい。
--	--